

## ホウレンソウケナガコナダニの発生生態と被害密度

資源環境研究部 病虫グループ 奈良井祐隆

ホウレンソウを加害するコナダニ類は数種類います。その主要種であるホウレンソウケナガコナダニは本来土壤中に生息する有機物分解者ですが、近年、農薬や化学肥料を減らし、土作りに有機質資材を積極的に活用するいわゆる環境保全型農業において、害虫として認識されるようになってきました。そこでその防除対策を講じるため、本種の発生生態ならびに播種前の土壤中密度と被害との関係を明らかにしました。



図1 ホウレンソウケナガコナダニ成虫とホウレンソウの被害

### ○結果の概要

ホウレンソウケナガコナダニによるホウレンソウの被害は、土壤中で増殖したダニがホウレンソウの新芽部に侵入し食害するものです。被害を受けた葉は正常に成長せず、光沢を帯びた奇形症状を呈します(図1)。

コナダニ類の土壤中密度は晩秋から春期に高くなり、ホウレンソウの被害も多くなりますが、夏期から秋期には密度が低く被害も少なくなりました(図2)。

また、ホウレンソウ播種前におけるコナダニ類の土壤中密度とホウレンソウの被害との関係から、被害許容水準が季節によって異なることが明らかとなり、さらに、その密度(100cm<sup>3</sup>当り: 土壌表面から5cmまで)がおよそ30頭以上になるとホウレンソウの被害が大きくなる傾向があることが判りました(図3)。

### ○今後に向けて

これらの事実を踏まえ、熱による土壌消毒等の農薬を使用しない新たな防除技術(体系)を構築していく考えです。

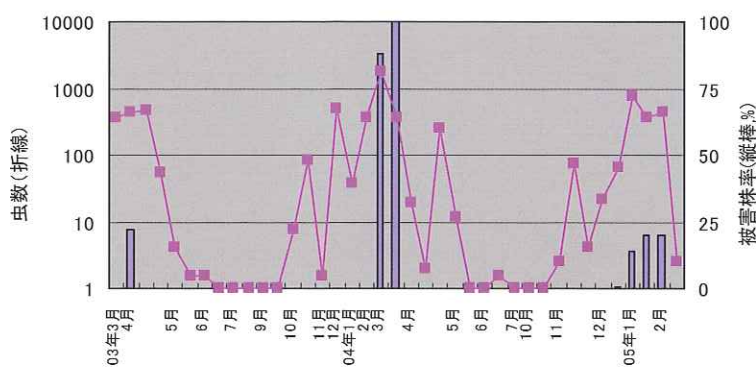


図2 土壌中におけるコナダニ類の発生消長数とホウレンソウの被害

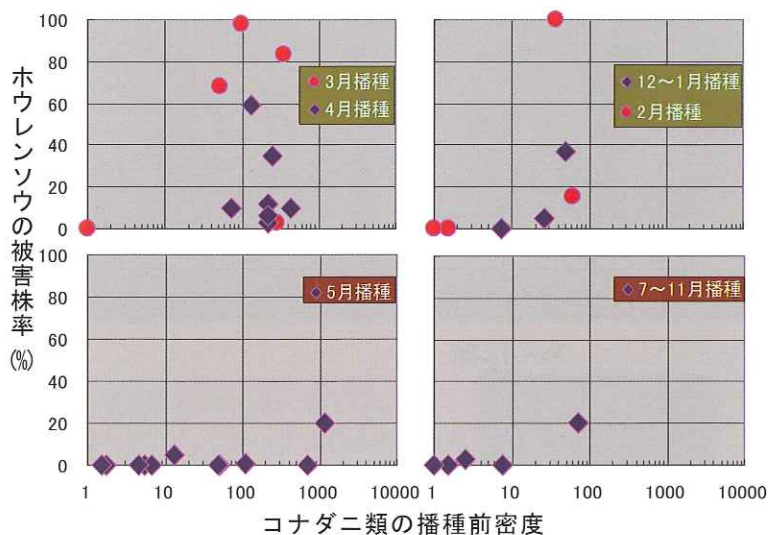


図3 ホウレンソウ播種前(0~23日前)における土壌中のコナダニ類密度とホウレンソウの被害(収穫時または収穫19日前)